

令和3年度 第2回釜石市立平田公民館運営審議会開催結果

1 日 時	令和4年2月22日（火） 午後2時～午後3時10分
2 場 所	平田集会所 1階 小会議室
3 出席委員	7名 佐藤雅彦委員、佐々木淳子委員、鈴木房子委員、小松美香委員、 鈴木崇委員、浅田俊子委員、福田博委員
4 欠席委員	なし
5 事務局等	3名 まちづくり課：平野敏也課長、佐々木薰主幹 平田公民館：小笠原達也館長
6 傍聴者	なし
7 経 過	

（1）開会

小笠原館長が定足数を満たしていることを告げ、会議の開会を宣言した。

（2）まちづくり課長挨拶

市内でも新型コロナウィルスの感染者が発生している。また市外の感染者が、釜石で勤務していることにより、市内で濃厚接触者が増えているという状況もあるようだ。釜石市のワクチン接種率は8日時点で10%。早めのワクチン接種が一番の対策と考える。

コロナの影響で公民館活動が思うようにいかなくなってしまっており、小学校、こども園の行事などにも参加できなくなっている。ワクチン接種率が上がることを待ちながら、上手に付き合っていくしかないと考える。

（3）出席者紹介

小笠原館長が出席委員を紹介した。

（4）協 議

①令和3年度平田公民館事業報告について

小笠原館長が資料に基づき説明し、委員から承認された。その後、意見交換を行った。
協議における各委員の発言については以下のとおり。

②令和4年度平田公民館事業計画概要について

小笠原館長が資料に基づき説明し、委員から承認された。その後、意見交換を行った。
協議における各委員の発言については以下のとおり。

③その他

小笠原館長から委員任期及び会議の報酬に係る事務連絡があった。

（6）閉会のことば

小笠原館長が閉会を宣言した。

8 委員の主な発言等

①令和3年度平田公民館事業報告について

- ・数多くの事業が行われていて、素晴らしいと思う。担当者の苦労がしのばれる。
- ・ここ数年、ゲーム、スマホについて問題になっており、情報モラル教室を開催したいと思っていたが、なかなか実施できなかった。要望を伝えたところ、すぐ動いてくれて、ソフトバンクの方を講師にして開催できた。またその際にプログラミング学習のことで困っていると話をしたところ、ソフトバンクで対応できるということで実施してもらった。是非継続して開催できればありがたいと思う。
- ・当園もつながるカフェでお世話になった。直に交流できればよかったが、直前に県の緊急事態宣言が出たこともあり、リモートでの開催を提案したところ、上手く対応してもらいました。現状を考えれば今後も必要になってくる方法かもしれない。またよろしくお願いしたい。
- ・つながるカフェに参加して、大平中学校の劇を見た。自分が親の世代の時は、子供達は守られる側だった。大平中学校では認知症についての勉強を行っていることから守る側になっており、感心した。素晴らしいと思った。
- ・民生委員で育成懇談会というものがあり、小学校、こども園に行って、色々な交流を持たせてもらった。今はコロナで色々なことが中止、縮小になっている。誰も悪くなく、しようがないと思っている。昔、子供達は高齢者に关心が無かったものだが、世の中の情勢も変わり、あいぜんの里との交流のせいか、挨拶や声掛けが良いということを耳にする。
- ・大平中学校の生徒の対応がいいということは、小学校、こども園の教育がいいからだと感じている。
- ・昨年末、釜石商工生が認知症の高齢女性を保護したという出来事があった。その高校生は大平中学校在学時にあいぜんの里の福祉学習支援を経験している生徒だった。女性に声をかけ、ジャンパーを着せたとのこと。また、地元でお年寄りのバス乗降時に高校生が手を差し伸べるということも身についている。福祉を授業に取り入れているのは、市内では大平中学校のみである。

地域みんなで見守る体制作り、プラットホーム作りができればいいと思い、つながるカフェを始めた。周りの人が何かあった時に地域で気付くことができる環境をつくりたい。地元の社会福祉法人が地域貢献として携わる素晴らしい取組みと思う。

来年度からコミュニティスクールという制度が始まり、運営協議会が立ち上がる。地域の方の考えを聞きながら、校長先生の考えるような学校の姿に近づけていくという制度。今は昔と違い学校と地域の関係が希薄になっている。そういうところをうまくつなげなければいいと考えている。

②令和4年度平田公民館事業計画概要について

- ・今後、あいぜんの里と福祉交流に取り組む予定。公民館とも連携しながら取り組むことができればいいと考える。
- ・来年度、完成する釜石祥雲支援学校も巻き込んだ事業展開ができればいいと思う。